

〈現在の能代高校校章〉

中央に「N」を台として、「高」の文字を置く。郷土を彩る松の葉で風土性を表し、その松葉を背景にした三枚のペンは学舎の学究的・学芸的な性格を表している。

学制改革で、中学から新制高校に移行するに際して、昭和23年9月23日に制定された。

新しい校章を決めるにあたっては、全校の職員・生徒からデザインを募集し、全校投票で選定されたものである。

高校生のほとんどが帽子を着用しなくなった今日、この校章を目にする機会がきわめて少なくなつたのは寂しい。



(現在の校章)

ボンポコ山のホットな交流

山本郡峰浜村

緑の芝生に覆われたボンポコ山に槌の音が響き始めて9ヶ月。おしゃれなベンション風の建物「ふるさと交流センター」がついにこの夏完成した。ボンポコ山のタヌキにちなんで、徹底的にタヌキにこだわって建てられたこの施設は、村の地域開発事業の中でも、もつとも村民が待ち望んでいたものだ。

「ふるさと交流センター」は鉄筋2階建て。1階は実習室などの設備が集中しており、タヌキ共和国特産品コーナー、ボンポコ芸術院(創作活動室)、ボンポコ国営加工工場(食品加工室)、ボンポコ国営農業公社(軽作業・物置・ハーブ乾燥室)などさまざまな体験学習を経験して、互いの交流を深めてもらうのが狙い。

一方2階は、休憩室がメイン。あわ風呂、うたせ湯やサウナをそろえたボンポコ風呂は人気の。隣接するゴミ処理施設の余熱を利用したもので経済的。ホットひといきラウンジやボンポコホール(食堂)、ボンポコタヌキの百畳敷(大休憩室)、タヌキ寝入りの間(小休憩室) 子タヌキ部屋(遊戯場)など、大人から子どもまで楽しめるスペースである。

この「タヌキの殿堂」のまわりでは、ボンポコ動物園や交流広場、アスレチック遊歩道などもすでに完成しており、ボンポコ山は一段と楽しく生まれ変わった。

「ふるさと交流センター」の完成を記念して、8月19・20日に「ボンポコ山タヌキの夏まつり」が催された。

祭はタヌキのお面にしっぽをつけた子ども園の園児たちによる子タヌキちようちん行列で開幕。タヌキ共和国大統領より、「一、他抜きをせず、隣人と共同して、交流に励むこと 一、年を忘れ、つねに遊び心を発揮して、心身を鍛えること」など5か条のタヌキ共和国の「おきて」が公布された。

集まった人たちは、このたび新しく創作された「ボンポコ踊り」やこのほかタヌキづくしのイベントに人間(?)をわすれて、タヌキの心情で多彩な催しものを楽しんだ。

ユーモアとパロディにとんだこの「タヌキの夏祭り」は、村内外からの大勢の参加者がぞくぞくと訪れ、まさに大盛況。その数およそ5千人と、村始まって以来の人出となった。



